

## 令和6年度予算

アナ： 「市長が語る 2024 三島」第1回となります本日は、令和6年度予算について、お話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： 令和6年度の予算のうち、福祉や教育など、市役所の基本的な業務に関わる一般会計予算は450億7千万円と伺っています。

今回、この予算を編成する上で意識したことはどのようなことでしょうか。

市長： 市政運営の柱として掲げております「ガーデンシティ」、「スマートウエルネス」、「コミュニティづくり」を基盤とし、「絵本のまち三島」などの新たな取組も加えながら、日本一幸せに暮らせる都市を目指し、市民の皆様「身体的、精神的、社会的に幸せな状態」である「ウェルビーイング」をより一層実感していただけることを重視して編成いたしました。

アナ： 新たに「絵本のまち三島」に取り組みれるということですが、どのような取り組みなのでしょう。

市長： 子どもから大人まで楽しめる「絵本」の限りない魅力に着目いたしまして、「絵本のまち三島」のロゴマークコンテストのほか、小中学生への絵本の読み聞かせや父親を対象とした絵本読み聞かせ講座などを行いながら、創造性・想像力などの育成や三島をより一層誇れるまちにしていこうというシビックプライドの醸成を図り、豊かで活力に満ちた市民生活とウェルビーイングの実現を目指す取り組みでございます。

アナ： 素敵な取り組みですね。この取り組みによって、心が豊かで思いやりのある人が増え、それが三島市の更なる魅力につながると本当に素晴らしいですね。

「絵本のまち三島」のほかに注目の取り組みはございますか。

市長： 昨年に引き続き、三島市・裾野市・長泉町・清水町の2市2町で構成する「富士山南東スマートフロンティア推進協議会」を主体として、運転手の担い手不足等の地域課題解決に向けた自動運転バスの実証実験を行いますほか、三島市・熱海市・函南町の2市1町で連携し、関係人口の増加や観光振興、消費拡大などを目指して本年2月にスタートしました「伊豆ファン倶楽部」の更なる展開を目指してまいります。

アナ： 昨年度から始まった新しい挑戦を更に発展させていこうということですね。

ところで、三島市といえば、子育て支援制度が充実しているというイメージがありますが、その方面での取り組みはいかがでしょうか。

市長： 妊産婦から子育て世帯まで、皆様が安心して子育てができる環境を整えるため、昨年10月に設置いたしました「こども家庭センター」において、

自宅からでも気軽にオンラインで相談できる体制を整えまして、相談支援体制の一層の充実を図ってまいります。

また、県内初の取り組みとして妊娠前の女性や母子の健康づくりをサポートするため、妊娠期などに特に必要な葉酸サプリメントの無料配布も実施いたします。

アナ： 県内初の取り組みもされるということで、三島市の子育て支援制度はやはり手厚いですね。ちなみに、その他の分野はいかがでしょうか。

市長： 最近では行政のデジタルトランスフォーメーションの必要性が一層叫ばれておりますが、市民の皆様が安全・安心に生活していただけるよう災害発生時の重要な情報伝達手段である同報無線のデジタル化による再整備を行いますとともに、質の高い市民サービスを提供するため、市役所窓口業務の更なるデジタル化やキャッシュレス化といったスマート市役所の推進にも引き続き取り組んでまいります。

アナ： なるほど。子育ての分野の充実だけでなく、行政のデジタル化など、市民の皆様の「今」を大切にしながら、将来に向けて発展できるようなバランスに配慮して取り組まれているのですね。

市長： はい。多分野・多方面にわたる取り組みをバランス良く、一体的に積み上げていくことで、将来に向かって持続的に発展することができ、日本一幸せに暮らせる都市になっていくものと思っております。

今後も、より一層ウェルビーイングを実感していただき、「三島で生まれてよかった、育ってよかった、暮らしてよかった」と思っただけのまちを目指してまいります。

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。